

お蔭様で 1996 年（平成 8 年）の開業以来、今月で丁度 25 周年となりました。季刊「かばごん」も通算 100 号です！これも、ひとえに皆様に支えられてきた賜物と思います。これからも、ご期待に添えますようにスタッフ一同、努力をつづけていくつもりです。乳幼児期から診させていただいた子どもたちが 2 世を連れて来院されます。若々しかったお父様、お母様たちが、おじいちゃん、おばあちゃんになられました。時々、診察中の子どもたちから「おじいちゃん」と言われて、時が経ったことをあらためて感じます。鏡に写った自分の顔をまじまじと見ると、白髪が増え、しわが増え、シミが増え……。医院の設備も経年劣化のため、今年はレントゲン設備と超音波検査装置を更新しました。さて、年数を経て一番大切な宝物は、貴重な経験と皆様からの信頼です。この宝物を大切に、もっと大きく育てていきたいと思っています。これからも、かばた医院をどうぞよろしく願いいたします。

【最近目立つ病気】

猛威を振るった RS ウィルス感染症は、すっかりみられなくなりました。今は、ウィルス性胃腸炎と季節外れの夏風邪（エンテロウィルス属感染症）のヘルパンギーナや手足口病が一部で流行しています。季節の変わり目のアレルギー疾患、アレルギー性鼻炎や気管支喘息や秋の花粉症も見られます。急激な気温低下で寒冷蕁麻疹や血管運動性鼻炎（いわゆる寒暖差アレルギー）も多いです。

【ヘルパンギーナ、手足口病】

ヘルパンギーナも手足口病もエンテロウィルス属の中の主にコクサッキー A 群ウイルスによって惹き起こされます。潜伏期間は 3～6 日で感染経路は経口・接触・飛沫感染です。両者ともに流行のピークは通常は夏季です。ウイルスは咳や鼻汁から 1～2 週間、便からは数週から数か月間、排出されます。好発年齢は乳幼児で、大人はめったにかかりません。おそらく免疫ができてきているか、RS ウィルス感染症のようにかかっても軽い症状で治癒するのだと思います。ヘルパンギーナと手足口病は同じ種類のウイルスで起こるので、はじめヘルパンギーナと診断されても後に手足や臀部に発疹が出て手足口病と診断が変わることもあり得ます。また、近年流行のあるコクサッキーウイルス A6 型によるものは、躯幹に発疹（水疱）が出て水痘と紛らわしいことや治癒後 2～3 週して爪がはがれることがあります。有効な治療薬はなく、対症療法により自然と軽快します。流行の阻止の目的での登園停止は有効ではなく、またウイルス排泄期間が長いので現実的ではありません。本人の全身状態が安定しており、解熱後丸 1 日が経過し、普段の食事がとれるならば登園可能です。ただし、手洗い（特に排便後）を励行することが大切です。

【季節性インフルエンザの流行予測】

昨シーズンは接触・飛沫感染対策が奏功し季節性インフルエンザの流行は抑えられました。さて、今年はどうなるのでしょうか？季節性インフルエンザに対する集団免疫が低下しているので、RS ウィルスが流行したように今年は大流行が起るのでしょうか？それとも、昨年のように接触・飛沫感染対策をしっかりすれば、流行は起ら

ないのでしょうか？私の予想は、今年も季節性インフルエンザの流行は起こらないと思っています。理由は、一つは、南半球では、今年も季節性インフルエンザの流行がみられませんでした。ただし、アフリカの熱帯地域やメキシコ、インドなどでは季節性インフルエンザの患者が少数ながら発生しているとのこと。二つは、インフルエンザは典型的な接触・飛沫感染による感染症ですので、ひきつづき手洗い・手指消毒、マスク、3 密（密閉・密集・密接）回避を守れば、感染を防ぐことが可能です。コロナ禍で分かったことは子ども社会に感染症を持ち込むのはおとなです。このことはおとなと子どもの行動半径を考えれば明らかです。逆に言えば、おとなが油断すると一気に感染が拡大するでしょう。三つは、RS ウィルス感染症やエンテロウィルス属感染症と季節性インフルエンザとは性質が違うことです。3 つとも飛沫・接触感染ですが、RS とエンテロは大人がかかっても軽症です。すなわち、こども社会に容易に持ち込まれるのです。これらに対し季節性インフルエンザは大人も重い症状が出ます。特にコロナ禍では、心配のため休まざるを得ません。これによって、子ども社会に持ち込まれる危険はかなり減ると思います。以上により、昨年と同様に接触・飛沫感染対策をきちんと励行すれば、今シーズンも季節性インフルエンザの流行は起こらないでしょう。しかし、新型コロナの流行と重なるといふ最悪な事態を避けるため、11 月中にインフルエンザワクチンの接種を受けておくことをお勧めします。

【新型コロナウイルスワクチン】

新型コロナウイルスの感染者数は 9 月に入り世界全体で減少傾向にあります。これは、ワクチン接種が進んでいることや、各国の流行対策の効果などが考えられます。しかし、北半球の温帯地域が冬を迎える 11 月ごろからは、流行の再燃も危惧されています。ワクチン接種の効果は約半年と考えられており、欧米諸国を中心に追加接種が始まりつつあります。なお、現在はデルタ株が世界的に流行していますが、新たな変異株が拡大する兆候は今のところ見られていません。なお、日本では第 5 波が 9 月末までに収束し、緊急事態宣言が解除されました。その後 3 週

間以上が経過しましたが、第 6 波の兆しはありません。我が国はコロナワクチン接種の出遅れがありましたが、接種体制が整ってからは急速に接種が進み先進諸国に追いつき追い越してきています。この勢いで 12 月から始まる 3 回目の接種に入っていけば第 6 波の抑制も可能かもしれません。

10～20 才代男性へのコロナワクチン接種の懸念される副反応について、厚労省は以下のような発表をしています。「10 代及び 20 代の男性については、ファイザー社のワクチンに比べて、武田/モデルナ社のワクチン接種後の心筋炎や心膜炎が疑われる報告頻度が明らかに高いことから、十分な情報提供の上、ファイザー社のワクチンの接種も選択できることとする。」これによって、10～20 才代男性では、1 回目にモデルナ社のワクチンを受けた場合でも 2 回目はファイザー社のワクチンを受けてもよいことになりました。新型コロナウイルスワクチン接種後に、動悸・息切れ・胸痛等の症状が現れた場合は、速やかに医療機関を受診してください。なお、できれば接種後数日は激しい運動を控えるようにしてください。



☆西念の駅西福祉健康センター内の金沢広域急病センター（Tel:222-0099）では午後 7 時 30 分から 11 時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は 11/5・R4.1/30 の予定です。なお、R4.1/16 は急病センターでの当番医です。

☆金沢市では乳幼児の任意接種のワクチンについての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆当院の Hp (<https://kabata-cl.jp>) から順番待ちシステムにアクセスできます。ネットで順番予約もできますので是非ご利用ください。また、コロナワクチン接種の予約も可能です。

☆世界の宝「憲法 9 条」を次の世代に贈りましょう。



